

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.104 2026.3.16
 発行 寝屋川市自然を学ぶ会
 会長 山田 晃
 事務局 寝屋川市高宮 1-7-9
 千田 正喜 宅
 ☎ 090-4036-0719



第26回展示会 交流コーナー アルカスホール 2026.1.24

ねむりのくに ～～～～ 阪田寛夫 ～～～～

こどもたちが	ひいおじいちゃんは	
かえったあと	ことし81	ひいおじいちゃんのなかに
ひいじいちゃんひとり	でも3で割ると27	若者がいる
ピアノの前で	9で割ると9つ	少年がいる
むかしのことをかんがえる	27で割ると3つです	おさなごもいる

「てんとうむし」 童話屋刊

目次

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| (2) 行事報告 1 第26回展示会 学ぶ会の展示とトピックス | (7) 子ども自然シリーズ講座 ⑫写真たて |
| (3) 行事報告 2 第26回展示会 関係団体の展示とトピックス | 大人自然シリーズ講座⑨野鳥⑩木の実 ・スタッフ研修会 |
| (4) 行事報告 3 第7回定例観察会 淀川太間～点野野草地区 | (8) 自然はすばらしい シダ植物シリーズ12 「スギナ」 |
| 行事報告 4 みんなの掲示板⑥ 鶴見緑地 | (9) 自然界のふしぎ 海の火山4 「海嶺」 |
| (5) 行事報告 5 野外活動センターの環境整備④ | (10) 私の自然観察 身近な昆虫 52 「ハンミョウ」 |
| 私の散歩道「淀川河川公園にて」 | (11) 図書紹介 たねはいのちのおわりとはじまり |
| (6) 参加・協力活動 東図書館、望が丘ランチ | (12) 行事予定 2026年度総会・記念講演 |
| みんなで作る自然教室だより | 自然観察会⑧私市植物園 |
| 子ども自然シリーズ講座⑩凧と羽子板 | 自然観察会①東部丘陵 ②淀川出口野草地区 |
| ⑪ひな壇づくり | みんなの掲示板① 奈良・宇陀カタクリ |

第26回(2025年度) 展示会『私の自然観察』から 楽しく広がった交流の輪！

今年度も会場はアルカスホールのギャラリーで、1月22日(木)～28日(水)の1週間、開催しました。あいにくの寒波が続きましたが、会場は暖かかったのか、昨年と同じく多くの市民・関係団体の皆様との交流を広げることができました。ご協力いただいた皆様に感謝いたします。



(1) 寝屋川市自然を学ぶ会の出展

□2025年度の活動

- ・ 定例自然観察会 ・ みんなの掲示板 ・ 子ども自然シリーズ講座
- ・ 展示会 ・ 参加行事 ・ 会報の発行 ・ 野外活動センターとの協働活動
- ・ 寝屋川市自然資料施設運営への協力 ・ 協力活動・連携

□分野別記録

◇定例自然観察会

・ 春の里山・春の淀川・水生生物・里山の自然・どんぐり・野鳥・春の野草、樹木

◇みんなの掲示板 宇陀「スズラン」と樫原昆虫館・伊吹山と山室湿原・当尾の里 他

◇子ども自然シリーズ講座 参加しました、協力しました 他

◇展示資料 ・ 自然関係図書 寝屋川の自然など・どんぐり20種、その他木の実など

◇配布資料 ・ 本会活動紹介の葉・会報100～103号・当面の行事予定

・ 身近な自然ガイドブック第3～8編 (実費配布)

(2) 会員の出展「私の自然観察」

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| ① どんぐりの工作の見本<作品9点> | { ⑪寝屋川市周辺で観察された野鳥<一覧1点> |
| ② 写真立て他<作品4点> | { ⑫淀川の野鳥<写真40点> |
| ③ 自然百景<俳画織帳> | { ⑬カワセミ・丹頂鶴<写真6点> |
| ④ 誕生星座を作ろう<作品1点> | { ⑭リースのお山<作品1点> |
| ⑤ 自然はおもしろい<ファイル4点> | { ⑮葉っぱの工作<作品1点> |
| ⑥ フラワートピアリー<作品6点> | { ⑯水彩画・工作他<6点> |
| ⑦ 写真立て他<作品5点> | { ⑰カワセミ他写真集<6点> |
| ⑧ 私の散歩道(写真資料から) | { ⑱愛知県東部地層見学<掲示物1点> |
| <ファイル14点> | { ⑲山形からの雪便り<掲示物1点> |
| ⑨ 私の自然観察<写真6点> | { ⑳糸魚川のフォッサマグナを訪ねて<掲示物1点> |
| ⑩ 高宮田んぼの楽校<資料6枚> | { ㉑山田池公園<写真4点> |



展示会トピックスその1

私の散歩道 ～新聞の自然記事等をまとめて～ 本多 政雄

新聞の記事を読んで関心の高い記事を見つけられたら、皆さんはそのあとどうされているのでしょうか。本多さんはその記事をまとめなおして、後でも資料として活用できるように、今までの分をファイル14冊に整理をしておられてそれを展示会で出展していただきました。その資料の1冊に近くの「河内の資料」もあって、近くの興味ある地域の話がたくさん掲載されていましたが、その資料を熱心に読まれている方もありました。

本多さんの自然観察は、観察会等で直に自然に触れる記録に留めるだけでなく、新聞という身近な資料の記事の深読みから自然とのふれあいを今も続けておられます。

(3)関係機関・団体からの出展

- ①寝屋川市環境総務課 どんぐりウォッチング、冬鳥の観察会他
- ②寝屋川市立中央図書館 じしゃくのふしぎ、もしも原子が見えたなら他
- ③寝屋川市野外活動センター いきものみつけ隊、はじめました他
- ④寝屋川公園 寝屋川公園の野鳥や昆虫たち、案内パンフレット他
- ⑤寝屋川公園・自然の会 活動紹介、作品7点他
- ⑥深北緑地 活動紹介、冬鳥の観察会、レンコン堀体験・パンフレット他
- ⑦ねや川水辺クラブ わんど再生、寝屋川のホタルくパネル2点
- ⑧水辺に親しむ会 活動紹介資料3点、写真9点、会報他
- ⑨生物多様性センター パネル1点、案内パンフレット他
- ⑩淀川管内河川レンジャー 活動紹介、A4版資料7枚
- ⑪寝屋川市自然資料施設運営スタッフの会 活動内容の紹介他



カワセミの写真

展示会トピックスその2

いきものみつけ隊はじめました！

寝屋川市野外活動センター

寝屋川市野外活動センターでは、「いきものみつけ隊」の活動を展開されています。

山の中の施設内や近辺には、いろいろな生きものがいます。「ロッジのそばにはアリジゴク、木の葉の上にはカマキリの仲間、夏にはセミの鳴き声も聞こえてきます。水辺にはカエルもいます。夜になるとタヌキも動き出します。楽しい活動は尽きません」と担当のスタッフは話します。

自然に触れる楽しみはいっぱいです。野外活動センターで生きもの探しを子どもと大人と一緒に楽しく展開しています。



野外活動センターのコーナー

(4)交流コーナー (手作り工作・おみやげ)



手作りコーナー

展示物の案内と会への勧誘も兼ねて、活動内容の話などゆっくりと説明していききました。知人を連れてきた会員の方が、自分が参加したイベントを楽しそうに話されている姿もありました。

展示の見学を一段落して、展示作品についての話題を交流しながら、手作り工作等を楽しみました。

手作り工作では、今年度はどんぐりペンダント、6枚羽の風車、ぶんぶんごまを作りました。おみやげは、木のチャーム、木の実のチャーム、押し葉のしおり、玉のれんで作った人形です。

第7回自然観察会 淀川 太間～点野野草地区(野鳥) 1月11日(日) 参加者31名
 ～たまには場所変更もおもしろい～ 中井 新一



ワー きれい!

例年、この観察会は打上川治水緑地で行われていたのですが、治水緑地が工事中との情報があり、今回はこの場所での観察会となりました。参加者31名(内子ども7名)。例年と比べて若干少ない人数でしたが、天候にも恵まれ、楽しく観察できました。

歩き始めて直ぐにタヒバリの群れに出会い、川面にはたくさんのキンクロハジロやホシハジロなどのカモ類に混じってカンムリカイツブリもいます。上空にはミサゴ、チョウゲンボウなどの猛禽類やセグロカモメも見ることができました。他には、シジュウカラ、ジョウビタ

キなどの小鳥類もいて25種類の野鳥に出会うことができました。「ワー きれい!」子どもたちもスコープを覗きながらとても楽しそうでした。

治水緑地では見ることができない野鳥(下線部)を観察できて良かったと思います。



タヒバリ



カンムリカイツブリ



チョウゲンボウ



キンクロハジロ左♂ 右♀



ホシハジロ

第5回みんなの掲示板 鶴見緑地(野鳥)

2月11日(水・祝)

参加者9名

～人慣れした都会の野鳥～

中村 清秀

最近の天気予報はよく当たる。朝から雨で、集合の11時頃から雨が上がり曇りとの予報。中止になっても咲くやこの花館に入ればいいかと思いながら、集合場所へ。雨の中、西三荘駅から歩いて来た人、車に乗り合わせて来た人、地下鉄を乗り継いで来た人など参加者は9名。雨も小降りになり、天気予報を信じて観察会が始まりました。

最初は山野の鳥を探しながら標高32mの鶴見新山に向かいましたが、鳴いているのはヒヨドリ、カラスばかり。そんな中、案内人の中井さんがアオジやキジバト、モズなど見つけてくれました。山を下り大池の端で大きなアオサギが1羽、我々を迎えてくれました。4m、3mと近づいても逃げません。2mまで近づいてカメラでパチリ。雨も止み、花座敷の池端では餌が貰えると思ってかオオバンやマガモが近づいてきました。池にはオナガガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、ホシハジロ、ミコアイサなど、多くの冬の水鳥が見られました。カルガモ、カワウ、カンムリカイツブリ、コサギもいました。最後に「鳥合わせ」をして23種の野鳥を観察しました。

自然が少ない都会の中で『餌付け』され、人が近づいても逃げない、たくましく生きる野鳥、自然との共存とは何かを考える機会となった観察会でした。



逃げないアオサギ



オナガガモ



ミコアイサ♀



人が近寄っても!

寝屋川市野外活動センターとの協働活動

第4回自然観察と環境整備

2月3日(火)

参加者 21名



雪の残る所で 打ち合わせ

寒い日で、野活に着くと前日に降った雪が少し残っていました。集合しての打ち合わせの際、野活の所長さんの挨拶があり、今年度より「いきものみつけ隊」(年10回)の活動を始めた話がありました。

木の剪定、虫広場への階段の整備、通路の掃除、広場の落ち葉掃き、樹木の名札の設置や修理、昼食の準備等分担して作業



テント下の落ち葉掃き

を行いました。今回は上の炊事場やテント下の落ち葉の掃除も行いました。活動していると暖かくなり、服を一枚二枚と脱ぐほどでした。

お楽しみ昼食は、カレー風ポトフでした。大きな鍋で煮た肉やソーセージ、野菜がいっぱいで、野菜が柔らかくて美味しかったです。

昼食後、センター内をぐるっと回りました。足元にはスマレやオオイヌノフグリなどの花が咲いていました。寒谷池にはオシドリが来ていたようでした。

帰りに、むろいけ園地に野鳥の観察に行きました。少し歩くと、木の枝に4~5羽のシメを観察でき、室池(砂溜池)から室池(中ヶ池)、山のエリアの花めく広場から駐車場へと戻りました。マガモ、カルガモ、カワウ、オオバン、アトリ、シジュウカラ、メジロなど15種の野鳥が観察できました。



マガモ ♀ ♂

私の散歩道

「淀川河川公園にて」

塚本 芳子



オオバンの群

鳥飼大橋から点野のわんど付近をよく歩きます。

冬はカモ類が飛来。年によって数や種類は異なりますが、オオバン、キンクロハジロ、ホシハジロ、カンムリカイツブリ等、時にはパンダガモとも言われているミコアイサも。

今年は緑とオレンジ、白の羽根の美しいハシビロガモが見られました。



ハシビロガモ



モズ

木々の葉が落ち、カワラヒワ、ジョウビタキ、メジロ、シジュウカラ、モズも見易いです。ウグイスが全身を震わせてさえずるのも。春になると、さまざまな草花が咲き、見事なお花畑が広がります。

自然観察を楽しむ他、早朝5時に水道局の係員が取水口の点検に、国交省の船が水上から、車は土手で、公園管理係の人が自転車で、川岸や土手などの点検。9時ごろになると川砂の運搬船の列が川上へ、11時頃には川砂満載で下ってくるなど、河川管理の一部を垣間見る事ができます。2年がかりの通称百円橋の耐震工事の進行状況も見ものです。

参加・協力活動

地域団体などと参加・協力活動を進めました。多くの会員の皆様にご協力をいただきました。

□ 望が丘ランチ

12月25日(木) 協力者4名

「冬休み子どもまつり」のイベントにどんぐり工作で参加しました。雨模様なのにたくさんの参加がありました。

木の土台に付けた大きなまつかさに、どんぐりなどの木の実、綿、ビーズ、フェルトなどで飾り付けて、まつかさのクリスマスツリーを作ります。細かいところはピンセットを使って慎重に付けていました。子どもたちは集中して、楽しそうに思い思いに飾り付けていました。でき上がった作品はそれぞれ個性があり、満足していました。



楽しいな

□ 東図書館まつり 「お正月遊び」

1月11日(日) 協力者4名

市民会館の中にある東図書館で、正月の遊びを紹介する催しがありました。福笑いや紙相撲などのコーナーがあり、本会からは、どんぐりペンダント、やじろべえ、ぶんぶんごまで参加しました。ぶんぶんごまは、ペットボトルのふたに切り込みの入った紙をかぶせて作ります。紙が開いて回るので、見栄えのするぶんぶんごまです。作り終わった子どもは、何度もぶんぶんごまを楽しんでいました。



ぶんぶんごま作り

みんなでつくる自然資料室だより

□ 子ども自然シリーズ講座

⑩ 凧と羽子板 12月21日(日)

子ども21名(他25名)

受付が終わった後、凧作りに15名、羽子板作りに6名が分かれて座ります。はじめにお正月の遊びについて簡単な話がありました。その後、雨天のため桜小の運動場が使えないので、凧と羽子板とも描く絵に十分時間をかけました。凧では、いつもはできない色付けをした後、和紙に竹ひごを貼りつけて凧を作りました。凧がうまく大空に



ていねいに塗れた!

舞いあがるかはお楽しみです。「凧上げができなかったけど、楽しかった」などの感想がありました。

新しい年を迎え、新しいイベントにも挑戦し、賑わいを取り戻しています。お立ち寄りください。

⑪ 道具を使った工作「ひな壇」

2月7日(土) 子ども12名(他21名)

木に描いたひな人形を飾るためのひな壇を作ります。大部分の部品はスタッフがあらかじめ用意してありますが、底板だけはこのごりごりで寸法通りに切ります。初めてのこぎりを使う子も、周りの大人の助けを借りて切っていました。なかなか真っ直ぐにいかなくて苦戦している子もいました。後は、金づちで釘を打ったり、木工ボンド



金づちが使えた!

で接着したりして組み立てていきます。出来上がったひな壇に木工ボンドでひな人形を固定していききました。

⑫道具を使った工作「写真立て」

3月8日(日) 子ども10名(他17名)

机等の上に置いて飾る写真立てを作ります。はじめに、飾る板を支える木を2人1組になってのこぎりで切ります。次に、飾る板に細い枝やどんぐり、まつかさ等をグルーガンで付けていきます。材料を少しずつ取ってきて、考えながら仕上げていきます。3歳の子でもグルーガンを使って上手に付けていました。また、お父さんと一緒に楽しそうに作っている姿もありました。「難しかったけど、楽しかった」とうれしそうでした。



できた！

□大人自然シリーズ講座

⑨身近な野鳥

1月9日(金)

参加者19名

野鳥観察をより楽しんでいただくために、身近な野鳥のおもしろい習性について中井さんより話がありました。寝屋川で見られるマガモ、ウグイス、ムクドリ、モズ・・・など。鳥と出あった時の喜びが皆さんに伝わるような話でした。皆さんも熱心に聞いておられ、「スズメが減っているようだ」とか「ハクセキレイが増えているようで、ベンチに座っていたら寄ってきた」との感想もありました。



講座の様子

⑩木の実のクラフト

2月18日(水)

参加者14名

環境フェアやエスポアール等で子どもに交じって熱心に作られている大人の姿も見られたので企画しました。

講師の木村さんが用意された見本のどんぐり工作を見て、「こんなのできるかな」と思っていた方も、時間と共に夢中になっておられました。「カエルの合唱団」「ひな人形の段飾り」とテーマを決めて作られていました。「子どもに交じってやるのは、どうも・・・大人だけなら」と参加された方もいました。



ひな人形の段飾り

□スタッフ研修会

山田池公園

2月16日(月)

参加者14名

天気は良かったのですが、少し肌寒く感じた1日でした。北駐車場に集合した後、山田池の見渡せる場所に移動しました。池には遠くの方に数羽の水鳥を見かけました。多くの鳥のさえずりを聞きながら移動し、浮見堂あたりでカワセミを見て、芝生広場の下にある池のせせらぎの道を歩きました。昼食は、梅林にある東屋です。今日は、ミコアイサやカワセミ、オオタカ、シメ等 33種の野鳥に出あい、おしゃべりしながらちよっぴり息抜きのできた楽しい研修会だったと思います。



あそこにいる！ どこ？

自然はすばらしい シダ植物シリーズ 1 2

スギナ 杉菜 トクサ科

天野 史郎

早春のころ、日当たりのよい原野にツクシが顔をだしているのを目にします。ツクシは昔からワラビ、ゼンマイとともに食用にされてきました。薬用としても古来より知られ、スギナを天日乾燥させた生薬を問荆（もんけい）といい、膀胱炎、腎臓炎、利尿など多くの薬効があります。

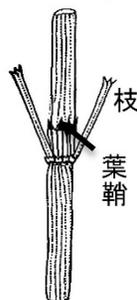


スギナ（栄養茎）

ツクシが盛りをすぎたころ、地下茎からスギナが伸びだしてきます。ツクシとスギナは地下茎でつながっており、ツクシが孢子茎でスギナは栄養茎です。全体を指すときはスギナです。地下茎は深く長くはい、ときに塊根をつけ繁殖力は旺盛です。孢子茎と栄養茎で別々の名前がついているのはめずらしいことですが、人々の暮らしに深くかかわってきたあかしでしょう。

スギナの先端にツクシのような孢子囊穂がつくことがあります。ミモチスギナとよばれますが、遺伝的に固定したものではないようです。

スギナは茎の節から一見葉のように思える枝がでています。細い複数の葉は下部が合着して葉鞘になり、茎の節部を取り巻いています。孢子は葉緑素をもち緑色で、



スギナ図

孢子のうという袋につまっています。孢子を吐き出すと空になった孢子のうは白く見えます。孢子には2本の弾糸があり、弾糸の中央で孢子に付着して

いるため4本に見えます。弾糸は湿ったときは縮まっていますが、乾燥すると伸びてきて、タコ踊りをするように孢子がはねます。低倍率の顕微鏡で観察できますので、ぜひご覧になることをおすすめします。



弾糸は白色で、孢子全体は白緑色に見える



ツクシ（スギナの孢子茎）

スギナの起原は古く、2億年前の古生代石炭紀にさかのぼります。その頃はスギナの祖先であるロボク（蘆木）などが20～30mに生長繁茂し大森林を形成していました。このシダの森林が地中に埋まり長い年月をかけて石炭になりました。現在でも沖縄の方では、木生シダのヘゴ類が10数mに生長しているのを見ることができます。みなさんも春の野に出てスギナを観察してみましょう。

自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「アンモナイトのふしぎ1～4」に続いて、今年度は「海の火山1～4」をお届けしています。

海の火山4 海嶺

西村 寿雄

今まで海底火山として「海溝火山」「単独火山」を取り上げてきました。その他にどんな火山があるのでしょうか。

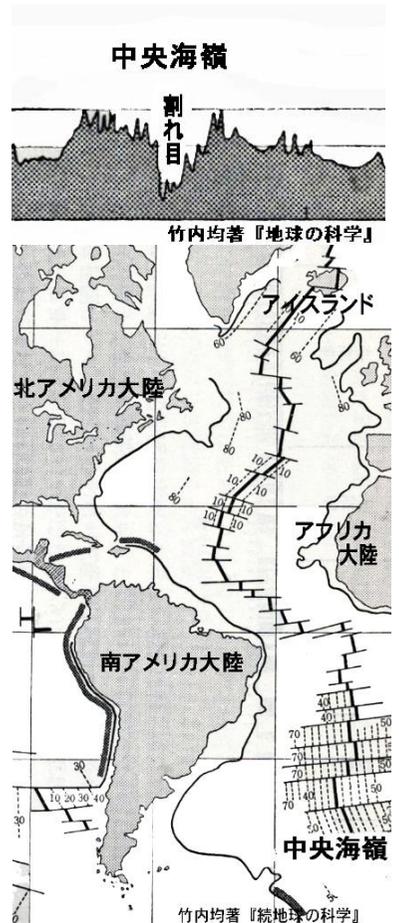
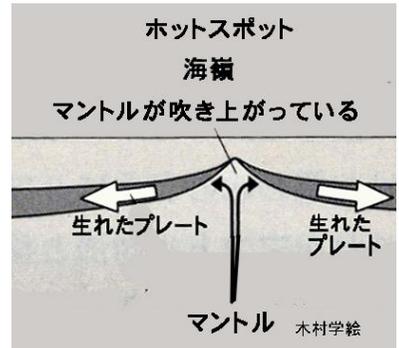
第二次世界大戦が終わった1946年、アメリカ海軍の軍人でもあった科学者ヘスは、海底ケーブル敷設のため大西洋海底をさぐっていました。すると、海底に不思議な長い凸凹があることに気がきました。さらに音響測深機を使って海底をくまなく調べ始めました。すると見えてきたのは長い溶岩の吹き出し口でした。その溶岩はマントルから出ていることが分かりました。ホットスポットと言っています。しかも、この溶岩の出口は「山脈」のように横に長く続いていて北はアイスランドまで続いていることが分かりました。ここを彼は「海嶺」と名付けました。海嶺で生れたプレートは横にずっと広がっています。海嶺のプレートはどんどん広がりプレートに乗った大陸も動いていたのです。かつてドイツのアルフレッド・ウェゲナーが「大陸は移動している」と言ったことの証明にもなりました。

アイスランドまでたどりついた海嶺はちょうど火山のように吹き上がっています。「ギャウ」と呼ばれています。地球の割れ目が深く谷になって溶岩が吹き上がっています。これも「火山」の一つです。

他の海底にも隠れている様々な「火山」があります。海底火山の溶岩は冷えると水圧のため枕状に固まります。地上で見られる枕状溶岩は日本にたどりついた海底火山の名残です。

海の火山も、躍動している地球を実感できます。

おわり



私の自然観察

身近な昆虫 52

一足元の輝くハンター：ハンミョウの不思議な生態—

高本 憲二

春から秋にかけて、林道や河原で私たちの前を先導するように飛び交う美しい虫。その姿から「ミチオシエ（道教え）」の愛称で親しまれているのが、ナミハンミョウ（以下ハンミョウ）です。今回は、その鮮やかな色彩に隠された驚きの生態と、観察のポイントをご紹介します。

1. 宝石のような色彩の秘密

ハンミョウの最大の特徴は、赤、青、緑と輝く構造色です。これは色素による色ではなく、体表面の微細な構造が光を反射して発色するもので、見る角度によって輝きが変わります。一見派手ですが、日光が降り注ぐ地面では周囲の光に溶け込み、天敵から身を隠すカモフラージュの役割も果たしています。



2. 生態：待ち伏せの達人

ハンミョウは鋭い大顎を持つ肉食性の昆虫です。その狩りのスタイルは「静」と「動」の対比が鮮やかです。

驚異の視力と脚力：昆虫界でもトップクラスの視力を持ち、獲物を見つけると猛スピードで走り寄ります。あまりに速すぎるため、走っている間は

脳の処理が追いつかず、「一時的に目が見えなくなる」という説があるほどです。
幼虫は「穴釣りの名人」：成虫は地面を走り回りますが、幼虫は地面に垂直な穴を掘って生活します。通りかかったアリなどの獲物を、頭部を蓋のようにして待ち伏せ、一瞬で引きずり込みます。

3. 観察のポイント：ここをチェック！

フィールドでハンミョウに出会ったら、ぜひ以下のポイントを観察してみてください。

- (1)道教え行動：人が近づくと数メートル先に飛び、こちらを振り返る動作を繰り返します。自分の縄張りを守る行動とも言われています。
- (2)大顎の動き：とらえた獲物を大顎で噛み砕き、消化液で溶かして吸い込みます。その迫力はまさに「陸のサメ」です。
- (3)生息環境：適度に湿り気があり、日光が当たる「裸地（草の生えていない地面）」を好みます。なぜ草むらではなく道にいるのか、考えてみましょう。

おわりに

かつては身近だったハンミョウですが、舗装道路の増加により、彼らが産卵・生活できる「土の道」が減り、各地で個体数が減少しています。会報を読まれた皆様も、ぜひ足元の小さな宝石を探しに、フィールドへ出かけてみてください。

図書紹介 ～こんな本が出たよ～

『たねはいのちのおわりとはじまり』

鈴木純/著
ブロンズ新社

ふだんよく見ている「たね」の本であるが、小さな子どもたちにもわかりやすく説いている。著者があとがきで言うように、一口に「たね」と言っても「見た目が種子に見えるもの(果実)と種子そのもの」がある。このことは、あまり気にしなくともいいがいちおう頭に入れて読むといい。

まず出てくるのはタンポポの綿毛、右ページにアップした写真が写されている。タンポポの綿毛の先に種がついていて芽を出している。次は別の種、ひまわり。ページを繰ると一週間後の写真、根っこが大きく伸びている。さらに日が過ぎると・・・。「たねの中には、いのちの一步目をふみだすために・・・」と記されている。種は命のもとだとわかる。次は、カラスノエンドウとアメリカフウロの種がさやかに始けている写真。種は風に飛ばされたり、水に流されたり、動物や人の服にくっついたり、鳥やアリの食べられたりいろんな旅をする。次に旅をした種は、いろんな所から発芽する写真が続く。ときにはコンクリートの隙間から。ページを繰るといろんな植物の発芽の様子が見開きで18も並ぶ。広い葉っぱもあるし細い葉っぱ、トゲトゲ葉っぱもある。みんな「顔」が違う。植物はなんと多様なんだろう。



次は成長したひまわりの姿。小さかった種が背丈を超えるような成長ぶり、種に秘められていた生命力の大きさを感じさせられる。ページを繰ると大きなひまわりの花が写し出される。花(舌状花)の中にはたくさん本当の花(筒状花)がみえる。筒状花にはたくさんの種が・・・。おなじみの写真も美しく映える。数百はあろうかたくさん種の覧。一粒の種から数百の種ができた。命の壮大さが伝わってくる。「たねはいのちのおわりとはじまり」と記したたくさん種の写真でしめくくる。

2025年10月 1,400円

<西村 寿雄>

絵手紙紹介



作：野田都起子



作：内田桂子

行事予定



ダイサギ 鶴見緑地

□定例自然観察会⑧

私市植物園を散策

- ◇日時：2026年3月20日(金・祝)
9:30～12:00 雨天中止
(ゆっくりできる方・午後自由観察)
- ◇集合場所：大阪公立大学附属植物園正門前
- ◇持ち物：水筒、雨具、筆記用具、(弁当)
- ◇入園料：400円
*中学生以下無料・府内在住 65歳以上 300円
(年齢・住所を証明するもの：免許証等)
- ◇駐車料：500円

□2026年度定例自然観察会①

東部丘陵を歩く

- ◇日時：2026年4月21日(火)
9:30～14:00 雨天中止
- ◇集合場所：JR寝屋川公園駅東口バスロータリー
- ◇持ち物：水筒、弁当、雨具、ガイドブック
- ◇丘陵地の春の野草を観察

□定例自然観察会②

淀川河川公園出口野草地区

- ◇日時：2026年5月6日(水・祝)
9:30～12:00 雨天中止
- ◇集合場所：淀川河川公園 太間地区駐車場
- ◇持ち物：ガイドブック「春の淀川」水筒、雨具、(弁当)
- ◇春の野草や昆虫を観察

□みんなの掲示板①

奈良・宇陀のカタクリ

～ 森の旧薬園・又兵衛桜～

- ◇日時：2026年4月7日(火)
- ◇集合場所：寝屋川市駅アルカスホール前
午前8時30分集合
(帰着予定：午後5時30分頃)
- ◇持ち物：弁当、水筒、雨具、その他
- ◇参加費：6,000円程度 定員22名
- ◇参加申込：3月30日(月)までに下記へ
中村 090-8750-5738
千田 090-4036-0719
*マイクロバスを利用します。

◎寝屋川市自然を学ぶ会
のHPです。



2026年度・寝屋川市自然を学ぶ会

総会案内

- ◇日時：2026年4月29日(水・祝)
- ◇場所：市民会館 3階 講義室
TEL：072-823-1221
- 総会
9:30 受付 9:45 開始
- ① 2025年度 活動報告・会計報告
- ② 2026年度 新役員選出
- ③ 2026年度 活動計画・会計予算
- 記念講演 10:40～
「石ころは地球の花」
講師：西村壽雄さん
- 参加者の交流
自然に関わる話題を交流します。
みんなで楽しみましょう。
☆会員でなくても、関心のある方のご参加を歓迎します。
- 12:15 閉会



キンクロハジロ・淀川

編集後記

会報104号をお届けします。冬鳥の記事はいかがだったでしょうか。新しく発見の野鳥もあつたでしょうか。展示会では多くの出展有難うございました。出展作品を通して多くの方との自然についての交流も深まりました。新年度も自然観察会など計画しています。参加して自然体験を楽しみましょう。